

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

学校名	武雄市立山内東小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 最終評価にむけて数値目標を向上させることができたが、常に数値目標以上となるよう目指していきたい。 「授業づくり1・2・3 vol.1 & 2」を活用した授業実践、ICTを活用した効果的な実践を行い、基礎学力の指導の徹底を図ってきたい。 業務の効率化が進んできたので、今後も児童と向き合う時間を確保し、児童に寄り添った対応を継続していくために「教育相談の日」を設け、いじめ問題等の早期発見、早期対応に努めていきたい。

2 学校教育目標	ひるまず がんばる しき(志気)の高い児童の育成 ~地域と共にある学校づくりを通して~
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>①「あいさつ日本一」を目指すなど、目標に向かって努力する志の高い子どもを育成する。</p> <p>②基礎基本を身につけさせる指導の徹底、ICTを利活用した効果的な実践、客観テストや調査結果をもとにした指導改善などを共有し、日々の授業改善につなげる。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果			評価
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	●教職員間でマイプランを共有する。「授業づくり1・2・3 vol.1 & 2」を活用した授業実践を日々行い、月末に振り返りシートを提出し、見直しを図る。	B	「授業づくり1・2・3」を活用した授業実践が「十分できている」、「おおむねできている」と答えた教師は75.1%であった。今後も振り返りシートでチェック、見直しを継続し、授業改善を図っていく。	B	「授業づくり1・2・3」を活用した授業実践が「十分できている」、「おおむねできている」と答えた教師は78.6%で、前年より3.5%増えている。今後も授業実践を高い水準の結果につながっていくよう努めていきたい。	A	・子どもたちの成績の伸びから、先生方の素晴らしい授業実践が伺える。 ・5年生が「学力の壁」と言われている。特に高学年の授業実践には力を入れてほしい。	・学力向上コーディネーター ・学習部
	○基本的な学習習慣の定着と学習内容の確実な定着	○教師アンケートで「自分の考えを書き発表する活動を各教科に取り入れた」の割合を85%以上にする。 ○児童アンケートで「家庭学習を学年の目標時間以上おこなった」の割合を85%以上にする。	○授業の中で、自分の考えを書いたり、説明したりする活動をし、児童の考えを交流させる。 ○「家庭学習時間」の調査を定期的に実施し、家庭学習に対する児童や保護者の意識を高める。	B	・児童の実態に合った指導方法、指導形態を考え、個に応じたきめ細やかな指導が「十分できている」と答えた教師は25%、「おおむねできている」と答えた教師は75%であった。 ・家で宿題を「毎日している」と答えた児童は85.7%であり、宿題の実施率をさらに高めていきたい。また、あわせて各学年の家庭学習時間も意識していきたい。	A	・児童の実態に合った指導方法、指導形態を考え、個に応じたきめ細やかな指導が「十分できている」と答えた教師は14.3%、「おおむねできている」と答えた教師は85.7%であった。 ・家で宿題を「毎日している」と答えた児童は85.9%であった。 ・4、5、6年生の佐賀県学習状況調査の結果に、県の平均値を上回る教科領域が多見られた。	A	・各学年の結果から指導方法の良さを感じる。 ・佐賀県学習状況調査の結果を見て、本当にうれしく思う。6年生も前年度より結果が向上しており、安心した。 ・宿題は約束事なので必ず守るように指導していただきたい。	・学力向上コーディネーター ・学習部
	○アンケートに関する項目「相手がいやがることをしなさい、いわない」で肯定的な回答をした児童80%以上にする。	○「相手がいやがることをしなさい、いわない」で肯定的な回答をした児童80%以上にする。 ・授業参観で、年1回「ふれあい道徳」を実施し、地域や保護者に公開する。	・人権集会を実施(人権標語に取り組み)し、学級の振り返り指導を実施する。 ・授業参観で、年1回「ふれあい道徳」を実施し、地域や保護者に公開する。	A	・「相手がいやがることをしなさい、いわない」で肯定的な回答をした児童は95.4%であった。「できていない」児童への指導支援を継続していく。 ・11月の日曜参観で「ふれあい道徳」を実施し、保護者とともに児童の道徳性を高めていくための時間をもつことができた。 ・11月に人権集会を行い、含言葉や標語を発表し合いながら、全校で取り組む週間を設定する。	A	・「相手がいやがることをしなさい、いわない」で肯定的な回答をした児童は95.4%であった。「できていない」児童への指導支援を継続していく。 ・11月の日曜参観で「ふれあい道徳」を実施し、保護者とともに児童の道徳性を高めていくための時間をもつことができた。 ・11月に人権集会を行い、含言葉や標語を発表し合いながら、全校で取り組む週間を設定する。	A	・自分だけでなく、相手の立場を考えた指導をこれからも続けてほしい。 ・次席者が少ないということは、友だち同士仲良くできている証拠だと思う。 ・親も経験したことのないマスク着用、無言給食等に対応しなければならなかった先生方は、大変だったと思う。これからもコロナストレスの子どもたちの心の声を聴いてほしい。	・人権同和教育担当 ・道徳主任
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等)の取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員を80%以上にする。 ○アンケートで「学校が楽しい」と回答する児童80%を達成する。	・生活アンケートを行い、いじめや生徒指導上の問題の早期発見、早期対応に努める。いじめを覚知した場合は、すぐに校長をトップとしたいいじめ対策委員会を開き、組織で対応策を考え、児童に寄り添った対応を図る。 ・「学校が楽しい」と答える児童がいた場合は、しっかり寄り添い、少しでも楽しく感じられるよう教育相談を充実させ	B	・いじめの防止等について組織的対応が「十分できている」と答えた教師は38.9%、「おおむねできている」と答えた教師は55.6%であった。 ・「学校が楽しい」と回答した児童は1~3年は97.1%、4~6年は75%であった。いじめアンケートや、くらのアンケートから、「楽しくない」と回答した児童の困り感や友達関係を注意深く見ていく必要がある。	A	・「学校は、いじめや生徒指導上の問題の早期発見に努めていると思う」と回答した保護者は「とても思う」が25.9%、「思う」が64.8%であった。さらに安心してもらえるよう早期発見、早期対応に努め、いじめ対策委員会を開いて組織としての対応を行ってきたい。 ・「学校が楽しい」と回答した児童は全校で90.4%であった。さらに「楽しい」が増えるよう、児童に寄り添った支援に努めていきたい。	A	・「学校が楽しい」と思っている子どもが増加しているのは、いじめ等がほとんどないからだと思う。 ・子どもたちは、元気に生活しているようだ。全員が「学校が楽しい」と答えるように努めてほしい。 ・いじめの早期発見・早期対応に努められている。保護者も安心されていると思う。	・生徒指導主任(生活部) ・教頭
	○自ら夢や目標の実現に向け努力する気持ち高める教育の推進	○「自ら夢や目標の実現に向け努力する気持ちがある」とアンケートで答える児童80%以上にする。	・志を高く、学校全体で「あいさつ日本一」を掲げ、学年に応じた日本一・あいさつを意識させ、あいさつのできよさに気づかせる。 ・高齢者体験、手話体験、車椅子体験等、体験活動を通して、将来の職業や生き方に対する見方、考え方を学ばせる機会を設定する。	A	・「自ら夢や目標の実現に向け努力する気持ちがある」と答えた児童は87.3%であった。 ・「あいさつ日本一」を目指し、児童自身があいさつ運動などを実施し、あいさつができると回答した児童は9割を超えた。 ・コロナ禍ではあるが、児童が将来の夢や希望が広がるような体験活動を多く取り入れていきたい。	A	・「自ら夢や目標の実現に向け努力する気持ちがある」と児童93.2%が回答した。 ・「あいさつ日本一」という大きな目標を立てたことで、「元気があいつができて」と回答した児童が、96.6%と前年よりもさらに6.3%増えた。 ・高齢者体験、手話体験、車椅子体験等、体験活動を通して、将来の職業や生き方に対する見方、考え方を学ばせる機会を設定する。	A	・目標を持つとやる気につながる。これからも目標を持って、いろいろな体験をする機会を増やしてほしい。 ・子どもたちが夢がどのようにしたら実現できるかと考えさせられれば、さらに大きく伸びると思う。 ・子どもたちは、地域で出会ったときにもよく挨拶ができている。 ・あいさつを自分からできるということは、他と	・総合的な学習主任(特活部) ・特別活動主任(特活部)
	●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切」と考える児童生徒80%以上 ○児童・保護者アンケートにおいて「早寝・早起き・朝ご飯」実施率を90%以上にする。	・生活状況調査や食に関する意識調査などを実施する。 ・保護者やアンケートを通して、朝食をとることの大切さの理解と啓発を行う。	B	・「健康に食事は大切」と考える児童は98.2%であった。 ・「早寝」は49.4%、「早起き」は65.5%、「朝ご飯」は78.2%の児童が「できている」と回答した。「早寝」については、特に高学年で実施率が低いため、生活習慣と健康の関係を伝え、基本的な生活習慣の大切さを感じさせていきたい。	B	・「健康に食事は大切」と考える児童は98.3%と目標を上回った。 ・「早寝」は55.4%、「早起き」は69.5%、「朝ご飯」は80.2%の児童が「できている」と回答した。前年を上回った。しかし、目標値には到達しておらず、特に高学年になるにつれて、夜更でゲームをするなど早寝ができず、生活リズムを崩す児童が見られた。「早寝早起き」の意義を健康面と関連させながら話をしていきたい。	B	・「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底と、食事=エネルギーということを子どもたちに意識させたい。 ・生活リズムの重要性や必要性を意識させたい。 ・ゲームは、ある程度は仕方ないと思うが、けじめ、メリハリをつけることが大切だと思う。学校においても、家庭においても指導すべきことだと思う。
○安全に関する資質・能力の育成	○防災教育を推進し、教師・児童のアンケートで「防災に対する意識が高まった」と回答する児童80%以上にする。	・防災危機管理課、国土交通省河川事務所などを活用し、体験学習や避難訓練、職員研修を実施する。 ・社会科「安全なくらしを守る」「自然災害から人々を守る」などを活用し、地域の方をゲストティーチャーに招く。	A	・避難訓練や防災教室などを通して、安全や防災について考えるようになった児童は約80.6%、安全教育や防災教育について意識が高まった教師は100%であった。 ・防災・減災課の出前講座を活用し、防災に関する知識を深めることができた。	A	・避難訓練や防災教室などを通して、安全や防災について考えるようになった児童は約89.8%、安全教育や防災教育について意識が高まった教師は100%であった。 ・避難訓練では職員が準備した動画等で事前や事後指導を行い、意識を高めることにつながった。今後は、さらに実態に応じた準備を効果を上げていきたい。	A	・防災・減災課の出前講座を活用することは、大変意義あることだと思う。 ・近年、大雨や積雪等については、山内町でも他地域ごととして捉えられなくなっている。防災意識をさらに高めていく指導をお願いしたい。	・生活部 ・指導教諭 ・教頭	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・定時退勤日(金曜)を設定し、メリハリのある勤務形態とする。 ・教育的効果と負担度を照らし合わせ、業務の見直しと効率化を図る。	B	・超過勤務の削減を意識したメリハリのある勤務が「十分できている」、「おおむねできている」と回答した教師は72.2%であった。 ・今後もタイムカード等を活用し、集計結果から勤務状況を把握し、超過勤務削減に向けた業務改善を図っていく。	A	・超過勤務の削減を意識したメリハリのある勤務が「十分できている」、「おおむねできている」と回答した教師は87.5%と前年よりも13.3%増えた。 ・全職員の時間外勤務時間の各月平均は45時間以内であった。	A	・先生方が努力されていることがよくわかる。 ・先生方は、自宅に仕事を持ち帰られていると聞くが大丈夫だろうか。無理をされないようにしてほしい。	教頭
	○行事・会議の効率化	○行事や会議の効率化を図り、児童と向き合う時間を確保する。 ○教師のアンケートで「行事や会議の効率化により効果的な教育活動につながった」職員を80%以上にする。	・仕事の効率化に向けた取り組みについて、「校内働き方改革委員会」を設け、全職員の意識向上を図る。 ・職員会議を2か月分一括に提案するなど、会議の効率化を図る。	A	・「行事や会議の効率化により効果的な教育活動につながった」と回答した教師は88.9%であった。 ・スズ・スズや活動を通じた児童への効果のどのくらいあるかを業務効率化ができてきている。 ・今後も校内働き方改革委員会を設け、業務の整理を行ってきたい。	A	・「行事や会議の効率化により効果的な教育活動につながった」と回答した教師は81.3%であった。 ・行事や活動を通じた児童への効果のどのくらいあるかを業務効率化ができてきている。 ・新年度は、重点化した学校行事等を今後実施していきたい。	A	・業務の効率化が進んでいるのを感じる。先生方の健康も考え、さらなる推進をしてほしい。 ・新型コロナウイルスの感染が減りつつあるなか、働き方改革の視点と合わせながら、行事や活動を再開させるべきか、なくすべきかを見極めていただきたい。	・指導教諭 ・教頭

重点取組	取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
				進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果			評価
○健康・体づくりの充実	○継続的に運動に慣れ親しむ・健康に対する意識の向上	・「スポーツチャレンジ」に1種目以上取り組む。学年を100%にする。 ・保健便り等を通して、う歯治療率を50%以上にする。	・「スポーツチャレンジ」強化月間を設け、結果を定期的に公表し、掲示する。 ・歯科校医と連携しブラッシング指導を行い、虫歯に対する意識を高める。	B	・「スポーツチャレンジ」は、11月以降に強化月間を設けるよう計画を立てている。 ・10月現在でう歯治療率は17.6%である。11月の「歯と口の健康教室」を実施し、冬休み前に再度、保護者へ治療のお願いをする。	B	・「スポーツチャレンジ」は、実施期間が短かったので本年度は年間を通して行っていく。 ・「歯と口の健康教室」は、校医と連携してブラッシング指導を行うことができた。う歯治療率の向上があまり見られなかったため、引き続き啓発を行ってほしい。	B	・新型コロナウイルスの感染も落ち着きつつあるので、体力の向上を進めてほしい。 ・歯の健康は成長してからでも大切なため、早めの治療を、さらに推進してもらいたい。	・体育主任(保健部) ・養護教諭
	○特別支援教育の充実	○特別支援に関する専門性が向上した教員80%以上	・「気になる子」に関する情報交換の場を週1回設け、共通理解を図る。 ・ケース会議や職員研修の場を設け、合理的配慮に基づいた指導、インクルーシブ教育の視点に立った環境を整える。	A	・職員連絡会で「気になる子」についての共通理解の場をもつことができた。 ・公認心理士やうらへの特別支援学校の巡回相談等を通して、配慮が必要な児童への支援方法を見出してきた。特別支援に関する専門性が向上したと感じている教員は88.9%であった。	A	・週に1回、職員連絡会で「気になる子」についての共通理解の場を設け共有理解を図ることができた。 ・職員研修やケース会議等を通して、特別支援に関する専門性が向上したと感じている教員は、93.8%と前年よりも4.9%増えた。	A	・先生方が子どもたちを理解しようとしておられる姿に感謝している。 ・児童での子どもの様子も参考にしていきたい。	・特別支援コーディネーター ・教育相談担当

●...県共通 ○...学校独自 ○...志を高める教育	
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 最終評価にむけて数値目標を向上させることができたが、常に数値目標以上となるよう目指していきたい。 さらなる「学力の向上」と「楽しい学校づくり」の実現を目指していきたい。 新型コロナウイルス感染症状況と働き方改革の視点から、今後の行事や活動の在り方を考えていきたい。